

「Value Engineering」から「Value Design」へ

株式会社IHI 理事・技術開発本部 副本部長

西尾 俊昭



「Value EngineeringからValue Designへ」をメインテーマに掲げ、昨年11月、第55回VE全国大会が開催されました。私はこの動きを、価値向上のための技術である「Value Engineering」から、持続可能な価値（Sustainable Value）の創造を目的とする「Value Design」へのシフトを目指していく、という意味として捉えています。

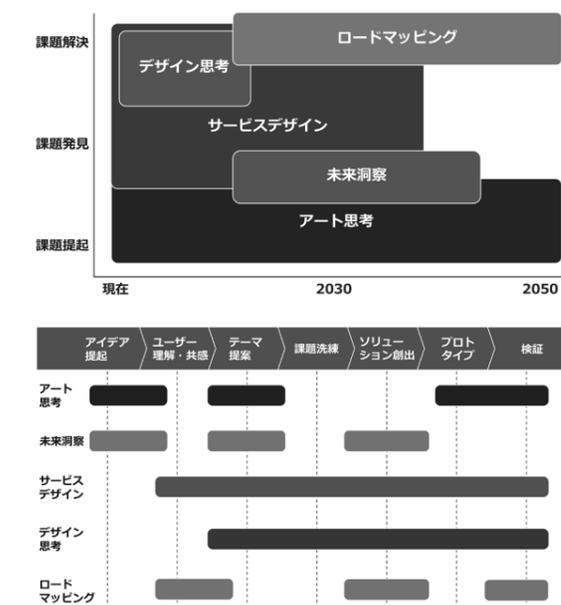
IHIは2022年度VE活動優秀賞受賞という栄誉をいただき、同大会の受賞報告で「グループのVE活動は、こうして衰退した」と題するプレゼンテーションを行いました。IHIでは1960年頃から有志による勉強会でVE活動をスタートし、企業運営に取り込んできました。もちろん、活動が活発に行われ、成果が確実に取り込まれていった時期もありますし、2010年頃に経験したようにリーダーシップの欠如による活動衰退もありました。その後体制を立て直し、現在はVEリーダーを中心に様々な活動が実施されています。その上で、活発な活動が戻ってきている別の側面での1つの理由に、弊社の技術開発本部で行っているイノベーションを加速するための様々な手法の取り込みと実践がVE活動により影響を与えていると考えています。

これは「サステナブルな社会のために多様な技術でできること」をコンセプトに推進する活動の1つで、社会やお客様が本当に必要とするソリューションを創り出す様々な手法（デザイン思考、サービスデザイン、未来洞察、アート思考など）をIHI流にアレンジし、「IHI Shared Value Innovation」と名付けて活用の促進を実践しているものです。

この活動は、日本VE協会が目指す持続可能な価値（Sustainable Value）の創造を目的とする「Value Design」と同じゴールを目指すもので、両者に刺激を与え、時には融合を図るものであります。

「IHI Shared Value Innovation」では、取り組む課題の種類と時間軸によって携える方法を使い分ける必要があると考え、課題の種類を「解決・発見・提起」の3つに分けています。

また、取り組む課題を明確にし、提起したアイデアを実現するまでのプロセスも分けています。具体的には、アイデア提起の際はアート思考を活用し、試作・検証の段階に進むとデザイン思考を活用するなど、1つの手法を定型通りに使い続けるのではなく、新たな視点を組み合わせることで、実現までのサイクルを素早く回しています（図表）。



この活動は、社会の変化に順応するためにイノベーションの思考やプロセスを、足を止めずに改修し続けることを前提に進めています。

日本VE協会が目指す「Value Design」へのシフトも、短期間でダイナミックな変化が次々に起こる現代において、VEがますます活躍のフィールドを拡大し、多くの人々に貢献していくために必要な進化と考えています。

日本のVE活動の進化、ひいては日本VE協会の発展に向けて、IHIも微力ながら積極的に活動に参加していきます。

IHI innovations / <https://ihi-core.tech>

(筆者は当会常任理事)

1 ● 巻頭言

「Value Engineering」から「Value Design」へ

IHI 西尾俊昭

2 ● 明日へのブレイクスルー

体験設計

ホロンクリエイティブ 高橋克実

6 ● 輝け! バリュー・クリエイター

VEを通じて変革人材を発掘し、強くてしなやかな筋肉を持つ企業へ

東京ガス 伊藤 学

10 ● 講演

SDGs人材からソーシャル・プロジェクトの担い手へ

エンパブリック 広石拓司

18 ● VE実践論文

設計ノウハウ伝承にVE活動を上手く活用するための提案

大西マネジメント・ソリューション 大西規生

26 ● VE研究会報告

VEとリーンシックスシグマとのシナジーの研究(4)

VEとリーンシックスシグマとのシナジー研究会 赤城弘一

● 連載

30 利益を最大化する「プライシング」の技法

野村総合研究所 下 寛和

32 価値向上をもたらす「設計マネジメント」

A&Mコンサルト 中山聡史

34 ● VE関連情報

VEの進化への試見(12)

日本経営システム協会

田中雅康、管 康人、後明廣志、谷 彰三、渡邊美穂

【表紙写真】

「5月の花～薔薇」

撮影者:鈴木伴久氏 CVS-Life